



市長とランチミーティング(25) 石垣島を日本一の学びの島に！

第25回「市長とランチミーティング」は7月26日(木)に「八重山の国際教育を考える会」の皆さんと行われました。

中山市長 今日は市長とランチミーティングに応募頂きありがとうございます。新石垣空港も開港しますので、いやがおうにも石垣市の国際化が進められていきますので皆さんの意見を聞きながら将来の石垣市の国際教育について考えていきたいと思います。

外国人観光客の受け入れ体制の整備について

会員 私たちの活動の現状としましては、翻訳や通訳ができるレベルの人たちが集まって勉強会を開いたり、検察や海上保安庁などでボランティア活動などをさせて頂いています。他にも英語ができる人が民芸や染色などを教えられ、英語で文化を伝えられる、音楽を伝えられるという人たちの増やしていきたいと考えて活動しています。語学についても、もう養成ではなくて、外国語を話せる方達は沢山八重山にはいるので、そういう方達にチャンスを与えられないのかなと考えています。私たちもこれからますます勉強していききたいと思っていますし、いろいろな方達を石垣に呼んで会議などをや

つていきたいと思っていますので、国際会議などで使う同時通訳の設備など簡易の物でいいので整備して頂ければと思っています。

会員 同時通訳の設備は石垣に1セットあってもいい物だと思えます。同時通訳の会社などに依頼すると費用がとて高いので、同時通訳の設備があれば我々で練習をして活用していきます。実際に石垣島で国際会議をやりたいと言ってくる所もあるので、設備と場所さえ整えば外国の研究者達も石垣に来やすいと思います。

国際人材の育成について

会員 国際人材の育成について私の方では特に中国語の話せる人材の育成についてお話ししたいと思っています。現在、八重山圏域での外国人観光客のほとんどがスタークルーズ社のクルーズ船あるいは復興航空の飛行機で台湾からやってくる観光客がほとんどです。そのクルーズ船の受け入れが始まって7、8年が経っています。それだけの年数を続けている中で石垣島の受け入



れ体制については中国語が話せる人材が極端に少なすぎる。私は考えます。この問題はこの数年ではなく、受け入れが始まった頃から問題提起されている事だと思っています。それについて外国語の専門家の育成、さらに台北教育大学へ留学している学生の卒業生たちの現状と、現在在学中の学生達を石垣市として今後、中国語が話せる人材としてどう確保していくのかどうかという動きや考えを聞かせてください。

中山市長 たしかに、現在多くの台湾観光客の方達が石垣島を訪れている中で、中国語が話せる専門的な人材は必要だなという認識はあります。まあ、そんなに中国語がペラペラではなくてもタクシーや商店街の多くの人達がある程度必要な中国語を話せるようになればいいなと思っています。現在台北教育大学に通っている学生達が石垣市の何らかの組織に入ったり、石垣市の職員採用試験を受験してもらって石垣市の職員として採用できれば色々とも彼らも活躍の場を広げられるのかなと思っています。

会員 現在、台北教育大学への留学生達の現状はどうなっていますか？

秘書広報課長 平成21年から台北教育大学への推薦をおこなっています。平成21年が2名、平成22年が4名、平成23年、24年は推薦者はおりました。平成24年7月現在では市長推薦8名、内合格者は6名となっており、既卒者は1名、在学中2名、3名が休学中となっています。



中山市長 人材育成の部分でみなさんから何かアイディアはありませんか？

会員 例えば観光業の方達もやっぱり語学を勉強したいという気持ちは強いし、そういう人は沢山いると思います。先ほど中山市長がおっしゃったようにカタコトでも最低限のコミュニケーションがとれるだけでも海外からの観光客を喜ばすには十分だと私は思います。要は相手の国の言葉をつかって、私たちは歓迎していますよという気持ちで外国人観光客に伝われば観光客も嬉しいと思います。ただ、どこで勉強すればいいのか？どう勉強すればいいのか？さらには費用がネックだと思ってしまうので、その費用の一部を行政がバックアップをしたり、もしくは行政が自ら講座をひらいてあまり費用が掛からない方法をとったり、分野別に宿泊業や運輸業などの講座を開いたりとかしてもいいのではないかと思います。

観光交流推進課長 沖縄県八重山事務所の方で一括交付金を活用した事業で「平成24年度地域意識形成・外国人対応セミナー事業」(現在申込は

終了しています。)を実施する事になっています。八重山事務所のホームページに概要が掲載されています。

会員 最近では高校を卒業した学生さんが海外、オーストラリアやニュージーランドへ留学して外国語を勉強するケースが増えていきます。地方から東京の大学に通わずよりも費用がかからないという逆転現象が起こっています。石垣でもそういう学生が今後増えてくる事も考えられます。



生涯学習センター設立の実現性について

会員 これまで、いろいろな人が島を盛り上げよう、外国人観光客と交流を深めようと頑張っているのですが、私も1年半石垣市に住んでみて思ったことは外国語を勉強する場所がないということ。教育とは何の為にやるかということとを調べると「エコノミー」という言葉に行きつきます。

経済力と学力は一体のものであるという事です。別に儲ける為に勉強するわけではないけれども、競争社会の中では頭を使わないとやっていけないという事です。これはどこの国でもどこの分野でも同じ事が言えます。ポテンシャルが高くても学ぶ場所や訓練できる環境がない。一生懸命勉強しても将来像が見えないがために、まあいいやと勉強を諦めてしまう事もあるでしょう。そうならない為に石垣島を学びの島、日本一の学びの島にしたいと思って私たちは活動しています。生涯学習というのは国の施策でもありますので、石垣市で生涯学習都市宣言などして頂いて、例えば生涯学習センターを設立していただくと島内外の色々な団体が利用してセミナーを



開くこともあると思うので、そういった施設の建設も検討して頂きたいと思っています。名護市には大きな北部生涯学習推進センターという施設がある。北部地区の人材育成の拠点になっていて、国際交流の拠点としても活用されているので是非参考にして頂きたい。

市長 貴重な意見を頂きありがとうございます。本日頂いた意見を参考に行政運営に務めていきたいと思っています。